

連合獣医学研究科

I	教育水準		教育 12-2
II	質の向上度		教育 12-5

I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準を上回る

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、当該研究科は教育目的に従って、4 大学及び 3 連携機関の獣医学関連の教員が構成員となって、基礎獣医学、病態獣医学、応用獣医学及び臨床獣医学の 4 講座から構成されている。教育研究指導分野を設置し、複数の教員による指導体制を確立しているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、教育内容・方法の改善に向けて、自己評価実施委員会及び代議委員会が対応し、在学生及び修了生を対象にしたアンケート結果を教育方法の改善に向けている。改善事例の一つとして、獣医学特別講義の改善並びに e-learning システムの授業への導入があるなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、連合獣医学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、連合獣医学研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

2. 教育内容

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準を上回る

[判断理由]

「教育課程の編成」については、課程修了までに 30 単位以上の科目修得が必要で、この

うち、主及び副指導教員による特論・特別演習・特別研究の取得が義務付けられている。学年進行的に単位修得が工夫され、研究者としての基盤形成から応用力の涵養までの教育が体系化されている。また、学位取得に向けての細やかな中間報告会が実施され、期限内の学位取得に向けての工夫がなされているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、遠隔地の学生の要望に応じて、**e-learning** による授業を実施している。獣医学特別講義（必修科目）の受講に当たり、教員配分の研究費から学生旅費を捻出し、学生への経済的支援を行なっている。修了後の進路は大学及び研究機関が多く、当該研究科は学生や社会の要望に十分に応えているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、連合獣医学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、連合獣医学研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

3. 教育方法

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準を上回る

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、主指導及び副指導教員が連携を保ち学位論文作成に当たっている。齊一教育として獣医学特別講義及び学際領域特別講義が実施され、専門に必要な教養（倫理、研究計画、論文執筆、プレゼンテーション）を提供する講義が生まれ、研究者養成に向けての工夫がみられるなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、個々の学生の専用の机や LAN ケーブルが配置され、**e-learning** の活用を促している。教員のファカルティ・ディベロップメント（FD）講習会を通じて、シラバスの充実・更新、教育目標と単位の明確化、教育の体系化、成績の基準、評価を明確にして主体的な学習を促すようにしているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、連合獣医学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、連合獣医学研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

4. 学業の成果

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準を上回る

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、留年率は 41%であるが、最終的な学位取得率は 80.3%である。また、各種コンペティションでの受賞者が複数出ている。在学期間短縮による学位取得もあり、効果的教育指導がなされているなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、在学生によるアンケート調査により、特別講義に対する評価は高い。また修了者によるアンケート調査により、「研究環境」、「研究指導内容」及び「学位取得の意義や在学中の教育」に対する満足度は高いなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、連合獣医学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、連合獣医学研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

5. 進路・就職の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、修了後の進路は約 80%が研究職に就き、また、3%は官公庁に進んでいる。民間動物病院でも獣医学博士として活躍が見られる。このような進路状況から、学生や産業界の養成に役立っているなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

「関係者からの評価」については、関係者として、雇用者の意見はないが、修了者による当該研究科の評価はかなり高い。修了者に対し、当該研究科の教育が今の仕事に役立っているかという質問に対して、87%が役立っていると判断しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、連合獣医学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、連合獣医学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

II 質の向上度

1. 質の向上度

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

[判断理由]

「大きく改善、向上している」と判断された事例が 2 件であった。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間終了時における判定として確定する。